

令和5年度の村上市の取組について

1 山北地域におけるスクールバス混乗事業（実証運行）の継続

(1) 概要

交通資源の有効活用のため、スクールバスへの住民混乗事業の実証運行を行うもの。

(2) 対象地域

山北地域

(3) 対象集落〔12集落〕

岩崎、中浜、伊呉野、北黒川、荒川、浜新保、桑川、笹川、板貝、今川、脇川、越沢

(4) 利用対象者

上記の対象集落に居住する方で、自分でバスの乗降ができる方。なお、利用の際は、事前登録及び事前予約が必要です。

(5) 実証運行の実施期間

令和5年4月～令和6年3月（10月以降、山北地域交通運営協議会の実証運行に含む。なお、期間中学校が休業の日及び夏季・冬季長期休業期間中は運行しません。）

(6) 利用料金

無料

(7) 令和4年度の登録者、利用状況及び周知活動（R5.2.28現在）

ア) 登録者：3名（80代女性、80代男性、70代女性）

イ) 利用回数：延べ5回

ウ) 周知活動

①集落区長に対して声掛け依頼数⇒2回（内訳：4月、9月）

②民生委員に対して声掛け依頼数⇒2回（内訳：4月、7月）

③集落集会での説明会数

⇒下海府地区の7集落を対象に提案、1集落のみ開催、27名参加

④個人に対して声掛け数⇒3回（内訳：6月、10月、1月）、14名

⑤告知端末放送による広報⇒4回（内訳：9月、12月、1月、2月）

⑥対象集落に対するチラシ全戸配布⇒3回（内訳：令和4年3月、4月、8月）

2 山北地域交通運営協議会への補助

【概要】

項目	内容
名称	山北地域交通運営協議会
事務所	当面の間、山北支所内に置く
目的	山北地域のあらゆる交通手段と人材を活用し、持続可能な公共交通網の構築による住民の交通手段を確保し、住民生活の向上を図ることを目的として、利用者や交通事業者などの地域関係者からなる住民主導の協議会を設置する。
事業	1 山北地域内公共交通運行事業 2 運行計画の策定及び変更 3 自家用有償旅客運送補助事業 4 地域内交通の調整及び利用促進事業
構成	1 利用者代表 山北地区まちづくり協議会代表 2 利用者代表 山北地域区長会代表 3 利用者代表 社会福祉協議会山北支所代表 4 利用者代表 山北商工会代表 5 利用者代表 山北中学校PTA代表 6 利用者代表 さんぼく小学校PTA代表 7 支援者代表 医療法人山北徳洲会病院代表 8 運行事業者 新潟交通観光バス(株)代表 9 運行事業者 特定非営利活動法人おたすけさんぼく代表 10 有識者
任期	2年
役員	会長 1名 委員のうち利用者代表の中から委員の互選により選出 副会長 1名 同上 監事 1名 同上 事務局長 1名 会長が指名（構成員以外も可）
報酬・費用弁償	村上市の条例等に準じた額
会議・議事	2/3以上の出席で、かつ、過半数の賛成で決する
予算等	村上市からの補助金及びその他の収入をもって歳入とする。また、運営協議会の運営及び事業に係る経費をもって歳出とする
要綱	別添のとおり
その他	令和5年4月中に設置のための会議を招集予定

3 路線バスの再編に伴う村上市地域公共交通計画の見直し

(1) 目的

令和2年度に策定した村上市地域公共交通計画の主要施策である「バス路線の維持」及び「のりあいタクシーの運行効率化」による重複路線の統廃合及び運行時間の見直し等を行うとともに、村上市地域公共交通計画の中間見直しを実施し、持続可能な地域内公共交通ネットワークを形成することを目指す。

(2) 対象

村上、神林、朝日地域内の公共交通

(3) 期間

令和5年4月～令和6年3月

(4) 内容

ア) 実態・ニーズ調査

イ) 新たな運行計画の策定

- ・路線バス、コミュニティバス、のりあいタクシーの整理

地域	路線
村上地域	松喜和線 まちなか循環バス、せなみ巡回バス 寒川線 通院対応のりあいタクシー
神林地域	小岩内線、岩船駅線 荒川・神林地区のりあいタクシー 通院対応のりあいタクシー
朝日地域	北中線、大須戸線、塩野町線、高根線 通院対応のりあいタクシー

ウ) 運行準備

- ・時刻表（運行情報チラシ）版下の製作
- ・停留所看板デザイン、マグネットデザイン等の製作
- ・GTFS-JP（オープンデータ）の整備

エ) 村上市地域公共交通計画の中間評価及び見直し案を作成

- ・村上市地域公共交通計画（R3～R7）の中間評価の実施
- ・国庫補助制度の連動化のための見直し案の作成
- ・次期計画の導入目標及び導入目標に応じた評価指標の検討

オ) 実証運行 令和6年10月(予定)

4 せなみ巡回バス車両（EV）の購入

(1) 導入目的

高齢者や障がい者など乗降時の負担軽減と地球温暖化対策として、老朽化しているせなみ巡回バスの更新に合わせ、低床のEVバス（電気自動車）を導入し利用しやすい公共交通と二酸化炭素削減に取り組めます。

(2) 導入車両

ア) 名称：BYD J-6（小型低床バス、郊外型）

イ) 数量：1台

ウ) メーカー：ビーワイディージャパン株式会社（中国・比亞迪(BYD)の日本法人）

エ) 国内導入実績：J-6は38台（※R5.1.31現在、新潟県内では村上市が初導入）

オ) 主要諸元（メーカー公表値）

①全長	6,990mm
②全幅	2,080mm
③全高	3,060mm
④バッテリー容量	125.7kWh
⑤航続距離	220km
⑥充電時間	急速充電40分（CHAdeMO2.0規格）
⑦乗車定員	25人（座席数18席）

カ) 導入費用：32,409,223円（R5.1.30付、仮契約を締結）

内訳	ベース車両価格	29,150,000円
	車両改造費	881,650円
	ワンマンバス架装品	2,377,573円

キ) 補助金：国土交通省『地域公共交通確保維持改善事業費（公有民営化方式車両購入費補助金）』、補助額：最大750万円

(3) 主要装備

はね上げシート・車いす・ベビーカー固定装置

車いす用スロープ板（反転式）

USBポート 11箇所

(4) その他

車体へのラッピング装飾は平成30年度に導入したまちなか循環バスのデザイン案を基本に、当該車両が市街地を循環運行することにより広くEV車であることと、本市が2050年までにCo2排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」であることをPRするデザインを取り入れる予定です。

(5) シートレイアウト図

注意：写真は参考車両で実際の車両とは仕様が異なります。

